

平成29年度 授業改善推進プラン 調布市立神代中学校

【児童・生徒の学力向上を図るための調査結果の分析より】

【学力向上に関する学校経営方針】

生徒の自律的な学習の支援及び「分かる授業」の実施

- 第1学年と第2学年において数学の習熟度別少人数授業を実施し基礎学力の定着を図る。
- 生徒、保護者、学校評議員による授業評価、教員作成の授業改善推進プランを活用して授業改善を図る。
- 英検、漢検の受験を奨励し、生徒の自律的な学習を促進させる。
- 学習ボランティアを活用し放課後学習教室(数学)を実施する。
- 障害に対する理解を深め、一人一人の生徒により適した教育を行うために、特別支援学級担任と連携し、特別支援教育の推進を図る。
また、長期休業中に講師を招いて研修会を実施する。
- 朝読書や朝学習を実施し基礎学力の定着を図る。
- 基礎学力が不足している生徒に対し、取り出しによる授業を実施し基礎学力の向上を図る。

【都「児童・生徒の学力向上に関する調査結果分析内容】

A 教科の内容

社会・数学・英語の3教科で東京都の平均正答率を上回った。しかし、「関心・意欲・態度」の観点においては、全教科東京都の平均を下回る結果になった。生徒の学習に対する「関心・意欲・態度」を高める授業展開が必要である。授業の導入を工夫することや授業の目標をはっきり提示するなど、授業改善していく必要がある。

B 読み解く力に関する内容

全教科、「読み取る力」「解決する力」で東京都の平均を下回る結果になった。必要な情報を正確に取り出す力を生徒に身につけさせるために、各教科の指導において、目標を明確にさせた上で、文章や図表などから、その内容を丁寧に読み取らせ、中心的な情報と付加的な情報に分けさせたり、取り出させたりするなどの指導の充実を図っていく必要がある。また、取り出し、読み取った情報をもとに解決する力を主体的・対話的で深い学習を授業に取り入れることにより、高めていく。

【授業改善の方針・目標】

- ・生徒による授業評価を行い、生徒の立場に立った授業改善を推進する。
- ・「授業計画の作成→授業→生徒による授業評価→授業改善推進プランの作成→検証→授業計画の作成」のサイクルを確立し、組織的に授業改善を推進していく。
- ・校内研修会で研究授業を行い、全授業者の授業改善を推進する。

【授業改善のための具体的な取組】

【授業計画の確認】

4月 シラバスの説明・公開

【校内研修による教科ごとの研究内容の決定】

学校全体としての研究主題【分かりやすく、個に応じた指導の工夫・改善】

4月 教科ごとに研修テーマを決定する

国語：板書とワークシートの工夫・言語活動の充実

社会：ニュース等身近な事象を取り上げ、社会事象への関心を高める。

数学：授業に意欲的、積極的に取り組ませるための教材・話法・形態の研究

理科：学期に1回以上お互いの授業を見せ合うように努め、授業力の向上を目指す。

英語：warm-up・新出事項の導入・コミュニケーション活動の工夫

音楽：パート練習の質の向上を目指したメニューの工夫

美術：興味・関心をもたせる授業の内容と工夫

保健体育：「思考・判断」の観点の評価基準の研究

技術・家庭：板書、ワークシートの工夫

特別支援教育：支援方法、題材選定の工夫

【生徒による授業評価の実施】

7月 授業改善推進プラン作成の基礎資料とするため教科ごとに質問項目を策定し、実施

【授業改善推進プランの作成】

8月 授業評価の結果を参考に授業の課題と改善策を検討

【校内研究による「相互授業参観」の実施】

9月～11月 校内において授業研究を行い、授業力向上を図る

【生徒による授業評価の実施】

12月 生徒による授業評価(2回目)を実施し、効果を検証する

【授業改善推進プランの検証】

2月 検証結果をまとめ、公開

【授業計画の作成(次年度に向けて)】

【取組の進行・管理、評価方法、時期】

4月 授業計画を作成・公表する。

5月 授業実践・教科ごとに授業評価の項目を作成する。

〈自己申告の面接時に管理職と学習指導のポイントを確認する〉

7月 生徒による授業評価

8月 授業評価を集計し、授業改善推進プランを作成する。

〈生徒の授業評価を参考に全職員が授業改善推進プランを作成する〉

9月 授業改善推進プランに基づいた授業実践を行う。

校内研修による「相互授業参観」を行う。

〈自己申告の面接を利用して進捗状況を確認する〉

12月 生徒による授業評価を行う。(2回目)

1月 授業評価を集計し、分析する。

2月 授業改善推進プランの検証を行う。

〈自己申告の面接を利用して検証結果を確認する〉

指導方法の工夫と改善

国語

	学習指導に関する現状と課題	具体的な授業改善策(補充・発展的な学習指導)	学年末における検証結果
A	1年生の1学期ということで、個々の能力を十分に把握できていない状態での授業開始となったが、「学習の進み方がちょうどよい」の項目で91.4%の生徒が「ちょうどよい」と回答したことから、生徒の現状に見合った授業展開ができていたと思われる。しかし、『「読む・書く・聞く・話す」の活動を熱心に行っている』、「テストの前には漢字練習を繰り返し行っている」の項目では、90%前後の肯定的な回答のうち約半数が「ややそう思う」という回答だった。この二項目に共通する「自主的な学習」をいかに促すかが今後の課題である。	「読む・書く・話す・聞く」という活動は国語の授業だけでなく、全教科、さらには普段の生活においても重要な言語活動である。授業ではまずそれぞれの活動に集中できる環境づくりにより力を入れる。特に「自分の考えを他者に伝えたい」「他者の考えを知りたい」と思えるように、興味を引くような活動テーマの設定をすること、考え等を文章にまとめる際に活用するワークシートの工夫を行う。漢字練習については、普段の授業内で教科書に出てくる漢字を取り上げて、その成り立ちを話すなど、まずは漢字への興味・関心をもたせるような働きかけを行う。PC等の機器が大幅に普及した現代だからこそ、手書きの重要性を伝えていきたい。	
B	「もっと知りたい、調べてみたい」「学習する内容がわかりやすく、理解できた」「進み方がちょうどよい」といった項目において、いずれも90%内外の肯定的な回答が得られた一方、「国語の授業が好きである」の項目では70%台にとどまった。今年度前半の指導内容が古典や文法といった必ずしも生徒に歓迎されない内容であったことや、週2時間の授業による表層的な指導内容が原因として考えられるが、だからこそ生徒の興味や関心を引き出せる導入・展開・板書等の工夫が今後の課題と思われる。また全国学力学習状況調査の結果は知識の面では概ね満足の結果であったが、活用面に課題が見られた。	「国語の授業が好きである」という項目の数値が70%台だからといって「楽しい授業」をしようとは思わない。まずは講義形式に陥りがちな授業形態を見直してゆきたい。それにはこれまで以上に授業の準備を充実させてゆく必要があると考えている。適切な導入や生徒の主体的な活動を引き出す展開により、知的好奇心を刺激する授業を考えてゆきたい。具体的にはまず著名な古典が書かれた背景の解説や、日常生活の中で用いられるありふれた表現の文法的な説明、また週2時間の時数の中でも指導の効率を高められるよう、ワークシートの活用等も検討してみたい。全国学力学習状況調査の活用面の拡充には比喩表現をはじめとしたより良い表現の工夫について一層指導を加えてゆきたい。	
C	都の学力調査では、ほぼ都や全国平均よりもよい結果だったが、記述式の問題のみ都の平均を下回った。授業評価アンケートでは「学習する内容がわかりやすく理解できた」の項目では95.1%が肯定的な回答だったが、ややそう思わない4.1%とそう思わない0.4%を重く受け止めたい。板書の見やすさは98.3%が肯定的な評価だった。今後の課題として「もっと知りたい、調べたい」に対して2.5%のそう思わないと回答した生徒への興味関心の喚起と、「国語の授業が好きである」に対して18.9%の否定的な回答に対応していきたい。	都の学力調査の結果から、記述式の問題に対する心理的なハードルが高いことが考えられ、その対策として具体的に記述式の答え方を指導していきたい。また、今後は生徒理解と信頼関係の構築を第一目標とし、その子にあった話し方をしたり、個別にコメントする機会を増やしたい。また、授業の導入を工夫し、興味関心を喚起する授業づくりを行ってきたい。授業の進度に関しては、レディネスに合わせて複数の段階を用意し、授業の学習内容を多く感じる・少なく感じる子に幅広く対応していく予定である。	
D	「授業が分かりやすい」「以前より興味を持てるようになった」の項目では概ね80%以上の生徒がそう思う傾向にあるのに対し、「授業で扱うワークシートは簡単だ」「定期テストの問題は簡単だ」の項目はそう思う傾向が4～50%と差が開いた。授業中、生徒がこちらからのヒントなしに自主的に読解が進められるよう難易度を調整していきたい。定期テストの難易度に関しては、ワークから似たような問題を複数題だったが、全くと言っていいほどワークをやらないう生徒が続出し、このような結果になったと思われる。ワークをしっかりやるような対策を考えたい。	「国語が好きだ」という俚文句が肯定的意見が75%だった。とても多く意外だった。笑える面白さではなく興味深いという意味のおもしろさをこれからも追及していきたい。もちろん後者の方が生徒に伝わるのに時間がかかるだろうし、生徒自身が要求しているのはまだ前者の割合が多いように感じる。そこをなんとか変えていきたい。授業でやったことを真の意味で理解している生徒に定期テストで満点をとってもらいたいと思って授業・テスト作成をしているが、家庭学習の徹底をもっと図っていかないと授業で理解してもすぐ忘れてしまうので平均点が落ちる。毎回少しずつでもいいから宿題を出すこと、ワークなどの提出物を細かくチェックすることが具体的対策としてあげられる。	

指導方法の工夫と改善

社会

	学習指導に関する現状と課題	具体的な授業改善策(補充・発展的な学習指導)	学年末における検証結果
A	授業評価アンケートにおいて、学習内容のわかりやすさ、授業のペースにおいて9割の肯定的な意見が得られたので今後も継続できるようにする。グループワークの取組に関しては、「そう思う」6割、「ややそう思う、あまりそう思わない」が3割であった。3割の生徒から考えられる授業の課題は、「集団で討論や活動することが億劫である」「わからないことを友人に聞きにくい」が考えられる。アクティブ・ラーニングを取り入れる上で、意欲の向上や主体性をどう伸ばすかは授業の課題になるので今後に生かしたい。	わかりやすく興味関心を持たせられる授業展開を絶えず教材研究を行うことで継続する。また、二学期からは宿題や小テストを定期的に行うことで知識の定着を図り更には自らで振り返りができる取組を行う。資料や映像提示を一学期よりも機会を増やし、生徒に興味関心を持ってもらえるように努める。課題となっているグループワークのあり方については、研究授業等を通して、教材の工夫や学習課題の示し方、方法論を今年度深く研究することで達成率の向上に努めたい。	
B	授業評価アンケートにおいて、授業の理解度や板書・プリントのわかりやすさに対して、9割以上の肯定的な回答を受けた。中学校の社会ということで内容が難しくなったが、わかりやすく丁寧に教えることを心掛けた成果が、一定程度現れていると感じている。ただ、社会科に興味を湧かしたかという質問に対しては、否定的な回答が2割近くあった。生徒たちに興味・関心を持たせる授業を展開することが、今後の課題と思われる。	授業準備・教材研究の時間を取り、自分自身の専門性を高める。それとともに、板書だけでなく、視覚的に訴える図絵やICT教材も活用し、生徒の理解度を高めていきたい。地理分野は聞くだけでなく見ることによって理解できることが多いため、生徒が授業への意欲を持ち続けられるよう、わかりやすく丁寧に教えていく。 また、時事問題を取り上げるなどして授業内容が実際の社会と接点を持っていることに気付け、生徒の関心意欲を伸ばしていきたい。発問やプリントのつくりかたを工夫し、生徒に考えさせる授業も展開したい。	
C	授業評価アンケートにおいては、「授業の説明」「板書」「プリント」「社会についてもっと知りたい」の4点全てにおいて、肯定的な意見が9割をこえたものの、「社会科についてもっと知りたい」という点については、肯定的な意見のうち「そう思う」と「ややそう思う」がほぼ同じ割合になった。これは、生徒が、社会の授業は、自分の生活に関係ないというように考えていることが原因であると考えられるので、生徒の生活に身近な事例を多く取り入れるなどの工夫をしていきたい。	生徒に身近な話をするだけでなく、生徒のグループ活動の時間や、実物や写真に触れる時間を増やすことにより、社会科で学ぶことは、自分の生活に身近な事柄であり、社会科を学ぶことにより自分の生活の中で起こる様々な問題を解決する能力が身につくことに気付かせ、社会科に対する興味関心を高めていきたい。	
D	授業評価アンケートでは、「説明が分かりやすかった」「授業中に使った絵や資料は分かりやすかった」という質問に対し、それぞれ9割以上の肯定的な回答を得た。今後も教材研究に努め、わかりやすい授業展開を心がけたい。「授業中の考える時間や自分の意見を書く時間に積極的に取り組んでいる」という質問は、97%の肯定的な回答を得た。引き続き、思考・表現を促す発問を積極的に取り入れ、生徒が主体的に参加できる授業を目指して行きたい。	生徒が理解しやすく、興味関心を持てる授業を行っていくために、夏休みなどを利用して教材研究をしっかりと進めていきたい。生徒がおもしろいと思えるような絵や資料、映像なども積極的に取り入れていく。また、授業では様々な授業形態を取り入れ、グループワークや話し合い活動、体験的な学習など、全ての生徒が授業に参加できるようにしていく。また、生徒の考える力が定着しているか図るためにも発表やワークシートへの記入などを通して適切な評価をしていく。	
A			

	学習指導に関する現状と課題	具体的な授業改善策(補充・発展的な学習指導)	学年末における検証結果
A	<p>『授業中に「わかった」、「なるほど」と思うことがある』という項目は8割が肯定的なものだった。現状に満足せず、9割以上を目指している。</p> <p>『授業内容のポイントが何かを意識して取り組むことができる』という項目は8割が肯定的なものではあるが、残りの2割の生徒は「何の勉強をしたのかわからない」、「何が言いたいかわからない」という状態では授業を受けていた可能性がある。早急に改善していきたい。</p> <p>『練習問題プリントや小テストが計算力をつけるのに役立っている』という項目は8割強が肯定的なものだった。スタディエイドを使用した結果と思われる。ただ『自分が目標とする、計算力を身につけることができる』という項目は8割弱だった。</p> <p>『数学的な考え方を知ることができたので、もっと知りたい。』という項目は7割が肯定的なものであった。このアンケート結果は数学的な考え方を知ることができなかった生徒、数学的な考え方を知ることができたが、これ以上知りたいと思わない生徒、もしくはどちらにも当てはまる生徒とがいたからと思われる。いずれにせよ、「テストで点数をとる」ためだけに授業を受けている生徒に対してのアプローチが必要である。</p>	<p>・授業の始め(3分から5分)は前回の復習を行う→今回の授業のゴール(何が出来るようになるのか、何を理解するのか)を明確にする→ゴールに向けて、授業を展開(教師の発問、板書)→ゴールにたどり着けたかの確認(練習問題をやる等)→時間があれば次回の授業の予告という一連の流れを作る。特に重要視しているのは、ゴールを明確にすることで、ただ漠然と授業を受ける生徒を減らし、それに向かって授業を受けられるようする。</p> <p>・『自分が目標とする、計算力を身につけることができる』ようにするために、数学が苦手な生徒にも、数学は得意で難しい問題に取り組みたい生徒にも対応できるようスタディエイドをもっと使いこなせるようにしたい。</p> <p>・数学のもつ規則性や日常生活に数学がどのように役立っているか等、生徒の興味を引き付けるような教材を考える必要があると思われる。</p>	
B	<p>授業アンケートでは、5項目中4項目において肯定的評価が90%を超えた。</p> <p>特に、「授業中の先生の指示を聞いて、何をやるのかわかる」の項目については、肯定的評価98.9%という結果を得た。これは、口頭だけでなく、板書も利用して指示を伝えた結果と考えられる。</p> <p>一方で、「学習する内容がわかりやすく理解できた」の項目については、5項目中唯一、肯定的評価が90%を超えず、88.1%だった。これは、発展コースの中でも習熟度の高い生徒に対する対応が十分でなかったことが考えられる。</p>	<p>本時の目標の提示や板書での指示は継続する。</p> <p>全体に対する指導に頼るのではなく、個別の対応に力を入れていく。演習中の机間指導で、説明を理解し、問題を解くことができるかを把握し、個別に指導する。</p> <p>コース全体で課題となっている内容については、家庭学習の課題を取り入れることで、つまづきをなくしていく。</p>	
C	<p>全ての項目において「そう思う」「ややそう思う」の項目が90%を超えた。</p> <p>『授業の中で「なるほど」「分かった」「理解出来た」と思うことがある』の項目で「そう思う」「ややそう思う」を選んだ生徒が98.6%だったので、1回の授業の中で内容を理解出来たとと思うことがない生徒が1.4%いることになる。今年から一斉授業になってしまったので、全員を個別指導することが難しくなっていたが、苦手な生徒を中心に机間巡視をして、全員が理解出来たと思えるような授業を行ってきたい。</p> <p>『間違えやすい事例等を授業で取り上げられる場面がある』の項目は100%という状態だったので、間違えやすい場面を強調しながら、授業を行いたい。</p>	<p>節目ごとに、基礎力を確認する朝学習小テストはこれからも継続して行っていきたい。また、授業の最初に行う基礎的な計算のテストや、前回の授業の確認も継続していく。スタディエイドを利用してプリントを作り、繰り返し問題を解く癖を付けさせ、学力の定着をはかりたい。</p> <p>また、数学が特に苦手な生徒に対しては個別指導を行っていく。間違えやすい問題は強調して説明し、なぜ間違えやすいのか、どこに気をつけたら良いのかなどを理解させていきたい。応用問題を解く際には適切なアプローチが出来るように、教材研究を日ごろからしっかりと行っていきたい。</p>	
D	<p>全国学力・学習状況調査の結果は、〔数学A〕では、どの領域・評価の観点においても東京都・全国の値を大きく上回ることができた。〔数学B〕では、資料の活用で平均を下回ったが、それ以外の領域では東京都・全国の値を上回ることができた。評価の観点では数学的な見方や考え方で東京都の平均を下回ったが、その他の観点では、上回る結果だった。</p> <p>生徒による「授業アンケート」では、どの項目においても、肯定的な意見が95%以上を占めていた。特に、「授業の目標(その時間にやるべき内容)を理解して授業に参加している。」では、肯定的な意見が98%と、ほぼ全員が目的意識を持って授業に取り組んでいることが分かった。</p>	<p>ほぼ毎時間行う復習プリントと授業中の発問、板書に関しては現状を維持する。</p> <p>一層の基礎学力の定着に向けて、問題集やプリント等による繰り返し学習を授業に取り入れる。</p> <p>授業の始めに必ず「めあて」を示してから授業展開していく。</p> <p>問題解決に向けて生徒がじっくり考えたり、悩んだりする時間を時計やストップウォッチを使い確実に確保する。</p> <p>計画的に授業を進め、高校受験問題に取り組む時間を確保する。</p>	
E	<p>授業アンケートでは、どの項目においても、80%以上の肯定的な回答を得た。『学習する内容がわかりやすく理解できた』という項目では、約95%が「そう思う」「ややそう思う」と答えたことから、授業での説明はほとんどの生徒が理解できている。また、『授業の目標を理解して授業に参加している』という項目で、約95%が「そう思う」「ややそう思う」と答えているので、授業のポイントをつかみながら学習できている生徒が多い。</p> <p>しかし、『学習していることについて、もっとやってみたい、もっと知りたいと思っている』やという項目では、肯定的な回答が約75%である。理解したことを練習したり、発展的に考えたりしようという意欲を持ってない生徒もいることが分かった。</p>	<p>その日の授業が「わかる」ことが大切であるので、生徒の理解度については現状を維持していきたい。また、それだけで終わらせないよう、学習したことの理解を深め、活用する場面をよりたくさん作る。その際、間違えやすい事例等を練習問題で取り上げたり、身近な事象を数学に絡めたりして、数学に対する興味・関心を高めていく。また、教師の説明やまとめを短く明確にし、数学に興味・関心を持ってない生徒にもわかりやすい授業を心がける。小テストをするタイミングや時間配分にも留意し、「問題が解けた」「自分で解決できた」という達成感を味わわせることで、さらに発展させて考えようとする意欲を高める。</p>	
F	<p>今年度第2学年は、7クラスでの習熟度別少人数授業となり、2クラス3展開のクラスと1クラス2展開の2パターンある。私は、3展開、2展開ともに、上位の集団を担当している。今回の授業アンケートでは、①理解④計算力の向上⑤計算力の目標達成で、9割強、②数学的な考え方③授業内容のポイントで8割強が「そう思う」「ややそう思う」と答えている。8割以上を当初の目標としていたので想定以上であった。昨年度は①～⑤すべてで、「そう思わない」が0%であったが今年度は1～2%程度であった。授業内容が昨年度より高度になったため、これも想定内の結果である。</p> <p>①考える作業を増やしたので「そう思う」が6割になり「ややそう思う」が約3割から約3割にシフトしたと思われる。難易度は下げずに考える能力を上げたい。②「そう思わない」がわずかに2%であることから、「数学的な考え方」についての興味・関心がまだ不十分と思われる。1年生の前期は、計算問題に比べ、思考・判断の問題を苦手としていることにも関連がありそうであり、授業中の考える時間を増やしていくのが目的である。後期、学習領域が広がるとともに、思考・判断の問題を増やしていき、思考力のレベルも上げていくので、現状となった考えられる。③⑤項目の中で「そう思う」の割合がもっとも少ないが、これも思考・判断を鍛えている最中なので想定内である。レベルを落とさずに、授業展開を進める。④については、基本問題の習熟度を上げることが中心に行っていて、難問はまだ少ないことから「そう思う」8割がでた。今後、レベルを上げていくと数値が下がると思われる。⑤思考を要する問題が増えていく中で、相対的に計算練習をする時間は減る。自学自習の時間、家庭学習がより重要になってくる。</p> <p>引き続き、習熟度の高い生徒に対応した問題を増やしつつ、これまで通りの基礎基本の習熟度もあげていく。</p>	<p>昨年度に引き続き、『正しく、速く、美しく』を年度当初に生徒に説明した。第1に正しく知識を覚えること。次にその処理速度をあげる。最後に自己・他者ともに理解できる内容・記述(字の丁寧さ)も精度をあげることを目標とした。用語の意味・計算の仕組みを理解すること。基礎・基本の反復練習で、ケアレスミスの率を下げること。よくする間違えの例や生徒の思いもよらない考え方の紹介。時間を計って、問題を解く。速く解いた生徒には、応用・発展的な問題を提示。等々行っている。</p> <p>3分割、2分割の上位のコースとはいえず、ぎりぎり入っている生徒には、やや厳しい内容が含まれる。また、解くスピードも上位者ほどない場合がある。できるだけ、解く時間の確保はしつつ、何もしない時間をなくす方向で授業展開する予定である。授業のレベルを下げずに、下位層を引き上げる工夫をしたい。下位層に多い傾向であるが、机間指導をして解く事ができるようになるが、試験では正確に辿りつけなければならない。「わかる」から「できる」まで習熟できないことによると思われる。</p> <p>①資料の工夫、②発問の工夫、③机間指導を中心に、当初の予定通りに授業をすすめる。</p>	

指導方法の工夫と改善

理 科

	学習指導に関する現状と課題	具体的な授業改善策(補充・発展的な学習指導)	学年末における検証結果
A	アンケートから学習内容は8割以上の生徒が理解できているようである。授業で扱った内容について「もっと知りたい」「調べてみたい」と思う生徒も8割を越し昨年と比べると理解が進み、興味関心が高まってきたことがわかる。実験のプリントに関しては、9割近くの生徒が見やすく答ええていたので、この形の実験プリントでよりわかりやすくしていきたい。授業の量に関しては、多いと感じる生徒が2割いるので、授業内容をわかりやすく、板書量を減らす必要がある。	授業中では、実験に興味を示す生徒が多いので実験と授業をリンクした授業で意欲・関心を高めていきたい。実験のプリントを定期考査につながるように構成し、わかりやすいプリントをつくることで、テストへの意欲を高める。そして、進路を意識して受験に出題される可能性が高い問題や実験を紹介することで授業に対する集中力を高めていきたい。また、1、2年の復習を取り入れることで、全体的に学力を向上させていきたい。	
B	校内授業アンケートによれば「学習する内容が理解できた」で肯定的な意見は、全体の9割弱の生徒から得られた。「実験に取り組む時間は多いか」「レポート用紙は見やすく使いやすい」「学習する内容の多さ」などは100%近い回答が得られているが、「授業で扱った内容についてもっと知りたい・調べてみたい」と回答した生徒は9割弱で、否定的な意見は1割程度になっている。1学年のときよりも若干増えてしまった項目である。特に1分野の学習内容は化学反応式や割合の計算、グラフなどの補助知識や要素が多く取り扱われ、苦手意識が一気に押し寄せている印象がある。化学分野の次は電磁気分野の学習となるが、ここでも四則演算が重要な計算方法となる。さらに苦手意識が強まってしまう生徒が増えるかもしれない。	2年生のうちに身につけておかなければならない能力として、記述力がある。そのためレポート課題を前年度よりも多く課している。自分の考えを文章として表現し、相手に伝わる内容で仕上げるものである。以前よりもヒントをなるべく少なくしている。「もっと知りたい・調べてみたい」という項目の改善は、レポート課題を利用して、その作成上で発生した発展性のある題材から、より詳しく自分で内容を調べてレポートする流れに繋げてみてはどうかと考えている。四則演算の補助のようなものは取り上げる時間が無いと思うが、計算プリントの最上段に計算方法などを例をあげて丁寧に載せていく方法をとるつもりである。	
C	全体的に集中して授業に取り組んでいる。「学習する内容が理解できた」という質問に対して98%以上の肯定的な回答を得た。その理由として「スライドや動画を用いた説明はわかりやすかった」「実験や観察に意欲的に取り組めた」に対していずれも98%以上の肯定的な回答を得たことから、視聴覚教材を多様に取り入れ、実験・観察中心の授業を行うことで、生徒の理解を深めることができたのではないかと考える。一方で「困難な課題でも粘り強くあきらめず取り組もうと思っている」に対して「ややそう思わない・そう思わない」と考える生徒が9%という結果となった。実験・観察に意欲的に取り組む生徒が多い一方、そこから得た知識を活用する課題に対しては、苦手意識をもちやってみようという姿勢を維持できない生徒がいることが分かった。	今後も視聴覚機器や実験・観察の時間を積極的に取り入れ、生徒の関心・理解を高める授業作りを行うと共に、毎時間の授業で復習の時間を作り、知識を定着させたい。2学期は学習内容も難しくなり、数値を扱う単元に入って行く。数値を扱う定量的な実験は繰り返し行い、グラフ化、計算など実験と関連付けて処理、分析できるように、指導方法の工夫を行っていく。また課題の出し方などを工夫し、発展的な内容でも諦めずに取り組み、理解を深められるような授業を考えていきたい。	
D	普通の授業では、落ち着いて真剣に取り組む生徒が多数いると感じている。「授業の目標(その時間にやるべき課題)を理解して授業に参加している」では、100%近くの肯定的な回答があり、その他すべての項目の質問に対して、98%以上の肯定的な回答を得ることができた。一方で、「学習する内容が理解できた」という質問に対しては、ややそう思わないと回答した生徒が1.9%であることから、その事柄に対して具体的な例題やもっと興味・関心を持たせるような授業を展開することが課題である。また1学期のテストの結果を受けて、基礎的な学力が身に付いている生徒が多いので、2学期は発展的な内容も増やしていきたい。	「学習する内容が理解できた」の項目で、肯定的な回答率をあげるためには、事柄に対して具体的な例題やもっと興味・関心を持たせるような授業を展開することで改善していく必要がある。2学期以降は「化学変化と物質」という単元を進めていくにあたり、具体的には、プレゼンテーションソフトを使ったり、できるだけ多くの実験や観察の時間をとりたいと考える。また、小テストなどを増やし、授業の内容を復習する時間を作り、知識を確かなものにしていきたいと考える。	
E	1学年は週1時間の授業のため、内容の継続性がやりにくく、1単位時間で内容が完結できるように授業を進めてきた。(2学年は週2時間であるので、内容の継続性は確保できる)生徒のアンケートでは「わかりやすく、理解できた」が99%を超えた。また、「学習の進み方」については「ちょうどよい」が97%、「今日何を習ったのかわかる」でも、99%がそう思うと答えている。しかし、授業の内容の継続性という点では、これからも内授業改善が必要であると考える。	<ul style="list-style-type: none"> ・全員が参加できる。 ・1単位時間に考える場面や話し合いの時間が10分以上ある。 ・「わかった」と思える場面がある。 これらの授業を目指し、以下の点を改善していく。 <ul style="list-style-type: none"> ・提示教材の工夫 ・自ら考える課題を提示したワークシート、発問事項の工夫 ・前時の授業とのつながりを思いだせる導入場面の工夫 	

指導方法の工夫と改善

英語

	学習指導に関する現状と課題	具体的な授業改善策(補充・発展的な学習指導)	学年末における検証結果
A	<p>(i)授業準備・規律:9割以上の生徒が教科書類を机上にそろえた状態で授業をスタートしている。一方で忘れ物が状態化している生徒への指導が必要。(ii)自立した学習者:授業ノートを丁寧にとり、話をしっかり聞くなど概ね誠実な学習姿勢。しかし、全体的に受け身であり「自主的に工夫して」学習に取り組むという点はまだまだ課題。(iii)学び合い・教え合い、表現する:男女問わずペアワークに取り組めるようになった。一方コミュニケーションが苦手で、全く活動が機能しないペアもある。さらに発表活動においては積極的に取り組む生徒と、消極的な生徒が二分化している。全ての生徒に十分な表現の場を確保することが課題。(iv)4技能の定着:「話す」「聞く」「音読する」ことはある程度自信をつけているが、「読み取る」「書く」力が不十分。またコミュニケーションの「継続」という点での指導を強化したい。(v)学習意欲:単元ごとのねらいの意識付けを行っている。しかし目的や意義を理解できていないために、活動に消極的な生徒も多い。明確なゴール設定と共有化によって学習意欲の向上を図りたい。</p>	<p>(i)授業準備・授業規律に関するルールの共有と徹底。ルールが守れなかった場合の手立ても確認する。(ii)自主学習ノートの活用。効果的な学習方法や良い取組みの紹介。また「やらなくてはならないから」ではなく、積極的な自主学習が自分のプラスになるという経験をさせるため小テストや基本本文コンテストを定期的の実施し、家庭学習の習慣化を図る。(iii)会話練習・教科書の音読&暗唱練習などペアワークを豊富に取り入れた授業展開。ALTを活用した1対1の会話テスト、スピーチ、暗唱など全ての生徒が学期に3回はクラスで発表する機会を設定。(iv)単元パート終了毎に教科書本文の小テストと基本本文コンテストの実施による基礎的な「書く」力の強化。教科書の続きを創作して「書く」、発展活動。ALTとのTTによる、個別支援。スローラーナーへの補習教室の実施。(v)教科書を進めることが目標ではなく、単元のゴールを具体的な姿「=〇〇ができるようになる」として生徒に提示する。同時に1年後、卒業時の目指す姿を共有化するとともに、学期末に目標到達度を自己評価させる。</p>	
B	<p>チャイム着席を守り、忘れ物も少ない。英語を話す・読むなどの表現活動に意欲的に取り組む。英語のリスニングや、ティーチャーズトークにも熱心に耳を傾け、英語で理解しようとする姿勢が見える。特にALTとのTTの授業では英語を積極的に聞き取るようとする生徒が多いことが授業アンケートからも読み取れる。学習した表現を授業中の表現活動や日常生活の中で使おうとしていると、9割近くの生徒がアンケートに回答している。その場で学習したことを意欲的に使おうとする姿勢がうかがえるが、授業後に振り返ると定着が不十分な生徒や、いつ、どんな場面で学習した表現を使用するのが理解があやふやな生徒も見られる。英語を話す、使うことにまだまだ自信がない生徒が多いのが現状である。</p>	<p>英語を話すこと、使うことの自信をつけさせたい。そのために、毎時間の目標(ゴール)を提示し、生徒と一緒に「この時間にクリアしたいこと」を確認をする。基礎基本の定着を図るために、同じ表現をくり返し使ったり、そこからステップアップさせたり、一度使った英語を忘れないような工夫を取り入れた発問や、ワークシートなど取り入れていきたい。また授業でやったことを、家庭でも繰り返し学習させるしくみのひとつとして、自学ノートに今日習った英語を声に出して読む、書くということを引き続き行っていきたい。授業で習ったことを、小テストなどのスモールステップで振り返らせ、今自分がどこまでできて、どこまでできていないのかをこまめに確認させる。こちらも、生徒がどの程度理解しているのか自己評価をこまめにさせ、授業改善に役立てる。</p>	
C	<p>授業に対して意欲的に取り組むことができている。一時間の授業の中で、学習する量がちょうどよいと感じている生徒は全体の約9割のため、無理なく授業に取り組むことができていると考えられる。今年度は、自分で学習の内容を決めて取り組める「自学ノート」というものがあるため、それを利用して自分の興味のあることや苦手なことを学習する生徒が増えているように感じる。また、授業を通して「読む、書く、聞く、話す」の活動を熱心に行っているかどうか、「そう思う」生徒は7割弱、「ややそう思う」生徒は3割弱であるので、「そう思う」割合がもっと増えるように、授業中の活動に力を入れていく必要がある。</p>	<p>新出文法導入の際は、分かりやすい説明をすることはもちろん、生徒の興味・関心をひきつける題材を用意し、写真などの視覚的教材で理解を補うように努める。また、「読む、書く、聞く、話す」の活動に対して、より積極的に学習していけるように、また、生徒の学習意欲を維持できるように工夫をこらしていきたい。例えば飽きないReading活動、様々なテーマでのWriting、Speech活動などを通して、生徒1人1人が主体的に授業に取り組めるようにする。その結果として、実際の場面で使うことのできる実用的な表現力を身につけさせたい。</p>	
D	<p>「授業を通して読む、書く、聞く、話すの活動を熱心に行っている」「先生やALTの話す英語を理解しよう」と心がけている」という設問に対し、どちらも肯定的な答えが9割を越えており、多くの生徒が意欲的に学習に取り組んでいるようである。しかし、「授業の中で『なるほど』『わかった』『理解できた』と思うことがある」という設問に対しては、「そう思う」と答えた生徒より「ややそう思う」と答えた生徒のほうが多く、3年生になり授業の内容を難しく感じる生徒が増えてきたようである。それは、「一時間の授業の中で、学習する量がちょうどよい」という質問に対し、「やや多い」と答えた生徒が3割近くいることからもうかがえる。</p>	<p>生徒が学習内容をより深く理解できるよう、毎回の授業において必ず前時の内容の確認・復習を行う。新しい内容も既習事項と関連付けて学ぶことで、学習内容のより一層の定着を図る。また、今まで以上に宿題や小テストなどを多く課すことで、生徒の家庭学習の時間を増やしていく。生徒の予習・復習に費やす時間を増やし、一時間の授業内では、より丁寧な指導を心がける。</p>	
E	<p>授業を通して「読む、書く、聞く、話す」の活動を熱心に行っている、先生やALTの話す英語を理解しよう」と心掛けている、授業の中で「なるほど」「わかった」「理解できた」と思うことがある、学習した表現を授業やALTとの会話で進んで使おうとしている、1時間の授業の中で、学習する量がちょうどよい、これらの5項目すべてにおいて、「そう思う」「ややそう思う」という肯定的な意見が合計で9割を超えている。これは各クラスの雰囲気や学習に前向きであるものと捉えられる。受験を控えた3年生なので、この雰囲気は継続していきたい。しかし一方で「読む、書く、聞く、話す」の活動を熱心に行っているという項目に関して、「そう思う」に対して「ややそう思う」の割合が他の項目よりも多くなっているのが生徒の意欲的に勉強に取り組む姿勢を今後醸成出来るような授業を展開していく必要がある。</p>	<p>生徒が自ら能動的に英語の勉強に取り組めるよう、授業内容の工夫をするとともに模範として英語を実生活の中で使う姿勢を示していく。既習事項の確実な定着のために、すでに習った事項が出てきた場合でも丁寧な指導を心掛ける。また帯活動を取り入れることで基礎的・基本的な知識の確実な定着を図っていく。新出事項を教えていく際にはねらいを明確にし簡潔でわかりやすい指導を心掛ける。授業の展開もスローラーナーから学びの早い子まで全般に対応するためスモールステップを踏んで授業を行うことを心掛ける。</p>	

	学習指導に関する現状と課題	具体的な授業改善策(補充・発展的な学習指導)	学年末における検証結果
A	<ul style="list-style-type: none"> ・落ち着いた雰囲気の中で授業が進み、授業中の指示内容を理解して活動している。演奏上の留意点について理解した上で練習に取り組む態度は、ほぼ定着している。今後も、授業規律を保ち、音に集中する環境づくりに務める。また、音楽理論が演奏に役立つように、反復して演習させる。 ・実技分野では1年生は、パート練習の方法を身につけさせ、自主的な練習態度と音楽的な緊張感の持続を身につけさせることが課題である。2年生は曲に応じた表現に留意し、音楽的感情とテクニックを結びつける集中力を向上させることが課題である。 ・鑑賞分野では、曲の特徴について授業中の説明を理解して鑑賞し、文章化することはできる。今後は、自分の感性で音楽的諸要素を深く感じ取り、既習の音楽用語を適切に用いて言語化できるレベルまで引き上げることが課題である。(H29) 	<ul style="list-style-type: none"> ・合唱活動では、パート練習・ハーモニー練習の方法を時系列に板書したり、少人数指導の時間を確保するなどして、生徒自身が何を練習すべきなのかを明確にしていく。 ・リコーダー演奏では、運指ミスが予想される部分を1人ずつ演奏させ、演奏に対する緊張感や集中力を向上させるとともに、テクニックを確実に定着させる。また、友人の演奏の良さに気づく耳を育てる。 ・音楽理論では、ワークシートで反復練習を繰り返し、基礎的な理解につなげる。また、合唱やリコーダーの楽譜の中で、楽典に関する内容や音楽用語を積極的に用いて説明し、よりよい演奏につなげる。 ・鑑賞分野では、音楽の諸要素を言語化するにあたり、鑑賞のポイントについて繰り返し説明を加えたり、楽曲の特徴となる部分について意見交換をさせるなど、語彙を拡げる場面をさらに増やす。 ・教科書教材の他にも、小品を鑑賞し、曲の特徴や良さなどを少ない文字数で自由に言語化させる学習を積み重ねていく。(H29) 	
B	<ul style="list-style-type: none"> ・授業の指示内容を理解して、意欲的に取り組んでいる。 ・実技分野においては自分たちでパート練習に取り組み、クラス合唱が向上していく喜びを感じている生徒が9割を超え、3年生では授業の始まりと終わりに行う混成四部のハーモニーでの挨拶で、自分たちで響きの完成度を理解できるようになっている。 ・鑑賞分野においては授業で新しい発見・知識を得たと納得している生徒が9割を超えている。今後は鑑賞分野で得た知識を他教科と連動させたり、実技分野に生かせるようにしていきたい。(H29) 	<ul style="list-style-type: none"> ・合唱ではその時間に「どこまで」「何に注意して」練習するのかをパートリーダー→個人に伝えられるよう明確な指示を出すよう更に徹底していく。 ・リコーダーでは、短い曲を繰り返し練習させ、丁寧に見ていくことで個人の達成感を高めていきたい。 ・鑑賞においては学習曲の資料だけでなく、それに関連する資料を充実させて、様々な方面への興味関心を高めながら音楽を学ぶ喜びを感じさせたい。 ・理論においてはワークシートを既習曲と関連させながら、反復して問題を解くことで身に着かせ、実技演奏に役立つようにさせていきたい。(H29) 	

	学習指導に関する現状と課題	具体的な授業改善策(補充・発展的な学習指導)	学年末における検証結果
A	<p>【3年全組】 授業態度は大変落ち着いており、説明もよく聞くことができている。生徒も「先生の説明はわかりやすい」について、93.4%の生徒が「そう思う・ややそう思う」と答えた。それは「制作していることについて、もっとやってみたい、もっと知りたいと思う」かどうかについて90.4%の生徒が「そう思う・ややそう思う」と答えた数と対応している。次の授業が待ち遠しいと感じる美術の授業を目指したい。制作した後も日常で使用できるような作品を制作していく。</p>	<p>【3年全組】 本時の授業目標を理解することが授業の集中につながることを生徒からのアンケートからわかる。今後も目標を明確に示しながら生徒の集中力を引き出し、伸ばしていく。さらに積極的に次の授業や作品づくりが楽しみに感じられる授業展開を意識していきたい。さらに三年生なので、記念に残る作品の制作を制作していく。</p>	
B	<p>【1年全組】 中学校に入って美術でどんなことに取り組むのか興味をもって授業に臨むことができる生徒達である。授業評価アンケートでは、「授業目標を理解して授業を受けた」かについて、88%の生徒が「はい」と答えた。その一方「私語をせず制作に集中できた」と解答する生徒は60%にとどまった。 大きな机で4人向かい合って座っていると、アイデアの出せない生徒達が制作に進めず、ついつい他愛もないおしゃべりを始めてしまい、制作が進まない状況が見受けられることがある。</p>	<p>【1年全組】 課題に対して、アイデアが出せない生徒をなくしていくことが重要と考える。そのために、1年生の間にどんなものを制作するのか伝え、あらかじめ資料を集めて考えたり、アイデアを練ったりする時間をもたせるようにする。またマインドマップ等のアイデアを出したり、頭の中を整理するテクニックなどを教え、授業の中で取り入れ、訓練していく。</p>	

技術・家庭

	学習指導に関する現状と課題	具体的な授業改善策(補充・発展的な学習指導)	学年末における検証結果
A	ものづくりに対しては、基本的には興味を持っており、授業も意欲的に取り組んでいる。製作途中でも、教師によく質問をしたり、生徒同士考え、教えあい楽しそうに取り組んでいる。課題としては、授業評価で「もっとやってみたい・もっと知りたい」という質問で「そう思う」の生徒が少なく、授業だけでなく、生活の中でも生かせるよう工夫が必要である。	製作した作品(道具)を授業の中で使用例をもっと知らせる必要がある。完成したら「はい、出来上がり！」ではなく、製作した作品が生活の中でどのように使用すれば、生活が便利になるかなど、時間をとって生徒同士考えさせる必要がある。他の生徒の考え方や、使用方法を話し合う場を意図的に授業に取り入れ、より良い作品にしていく。	
B	昨年度の授業評価アンケートでは実技への関心は高いが、実習する心づもりが出来ていないと思っている割合が予想より高かったが、今年はその割合が減ったので実習説明や実技見本の方法を更に分かりやすいものにしていきたい。食物実習はただ「食べたい」だけの生徒が多いので実技の向上や生活の中に取り入れる事に目標をおき、指導していきたい。被服の製作時間については、今年は「やや少ない」と感じている割合が約23%と例年より減少した。決められた時間内にいかに集中して取り組み仲間同志の教え合いもできると良いと感じている。	特に被服製作は時間もかかり、コツコツとめんどろな作業を行う継続力を養う良い機会となったが、すぐに飽きてしまう生徒も多い、その原因のひとつが基本技術が習得されていない事にあるので小学校の復習を確実にし、中学校の課題にはいりたい。実技は「やった事がある」、「これならできる」など、生徒が自分に自信を持ち、それを生活のどこかで意識して活用できるように導いていきたい。	

	学習指導に関する現状と課題	具体的な授業改善策(補充・発展的な学習指導)	学年末における検証結果
A	何事にも真面目に取り組む生徒が多く、体を動かすことも好きな生徒が多い。また、基本的な内容に真剣に取り組んだり、友達に対してアドバイスをしたり、あるいは求めたりすることもできる。課題としては、到達度が極端に低い生徒に対する指導、到達度の高い生徒への指導、さらに中間層の生徒への指導と、各階層全てが充実感や達成感を持てる授業づくり、授業展開の工夫が挙げられる。	集団を三層(到達度の段階)に見取り、目標も三段階にすることで個人の目標を具体的に示す。それによってそれぞれが、各自の取り組み方、練習方法等をより具体的なものにする。また、練習方法や補助教材等も三層に見合ったものを工夫する。 到達度の高い生徒にアドバイザーを積極的に取りませ、できる喜びだけでなく、伝える喜びも感じてもらう。	
B	3年男子1学期の授業評価アンケートでは、98%の生徒が指示や説明がわかりやすいと回答しているので、引き続き板書や掲示物を活用して、毎時の授業のねらいがしっかりと生徒に伝わるよう心掛けていく。運動量の確保に物足りなさを感じている生徒が6パーセント、目標に向かってじっくり取り組む機会が少ないと感じている生徒が5パーセントいることが今後の課題となる。仲間同士でアドバイスし合う機会については7パーセントの生徒が不十分と感じているが、種目の特性もあるので、2学期以降の重点項目としていきたい。	説明は学習カードや板書を利用して短時間で効率的に行い、授業内での運動量確保を引き続き大切な課題として継続指導していく。種目の特性を考慮しながら、マット運動での「アドバイスカード」、球技での「本日印象に残った仲間のプレー」などを活用することによって、仲間の動きや取り組みにも注目させ、さらに助言し合うことの楽しさ、有意義さを実感させる指導を進めていく。単元、領域によっては、ビデオ・プロジェクターなどの視聴覚機器を利用することによって、視覚から理解を深める指導にも取り組んでいきたい。	
C	真面目に授業に取り組む、与えられた課題解決に向けて、一生懸命取り組んでいる生徒が多い。しかし、自ら進んで技術向上のための課題を探したり、目標を高めていくなど、自主的に取り組む生徒は少ない。技術向上に向け、何が足りないのかを考えさせるアドバイスなどの工夫をしていきたい。	頑張ればできるというところから少しずつステップアップしていくような目標設定をさせていく。お互いを高め合うために、グループや集団で話し合う機会を多く設定する。また、それぞれの種目について達成度の高い生徒が苦手な生徒に教えるなど、教えてもらってできたという達成感と教えることによって自分自身の課題を見つけていくという体験をたくさんさせていきたい。	
D	授業に真面目に取り組む姿が増えてきている。授業評価アンケートから、2～4%の範囲で、指示の分かりづらさや、運動量の不足や、じっくり取り組み機会の不足を感じているようなので、分かりやすい言葉、指示、また時間的ゆとりの確保が出来るよう努めていく。仲間同士のアドバイスに関して、6.4%の生徒が機会の不足を感じているのは、コミュニケーション力に起因する部分もあることが想定できるので、体育活動を通じ高めていけるよう指導を重ねて行けるようにする。	第一に、自己の動きへの理解を深める必要がある。個々の課題を捉え、動きや練習のメニューが設定されるが、その活動内における他者とのコミュニケーションに時間を掛けて、自分の動きの学びへと成長を促したい。そのためには、現段階では、全体の雰囲気、環境作りをベースに、互いに認め合う関係作りの場面が増えるよう設定していくことが重要で、その経験を繰り返すことで成果に繋がるのではないかと考える。	
E	意欲的な生徒が多く、大多数の生徒が真面目に取り組んでいる。しかし、個々の運動能力の差が大きく、段階別の指導や教材の使い分けなどを行っているが、どうしても一人ひとりに十分に時間をかけた指導をすることができていないように感じる。授業評価アンケートでの「自分の目標に向かってじっくり取り組む機会や時間がある。」という項目に対しては、「ややそう思わない」と回答が少数いるので、さらに指導内容を工夫ししていきたい。	課題をしぼった授業展開を心がけ、一つの課題に対してじっくりと時間をかけて取り組めるような機会を、授業の中で意識して取り入れるようにしていく。また、到達度の高い生徒には、積極的に「教える役割」を任せ、教え合いの時間を作ることで、充実感が得られるような工夫も心がけるようにする。	